



# おきなわ



作品名:「海ソテツ」 撮影:勝連栄公さん(那覇市)

## 目次

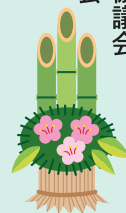
- |                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| ② 新年のごあいさつ、芸能チャリティ公演    | ⑪ 地域生活定着支援事業研修会 他  |
| ③ 特集 沖社協60年のあゆみ〈後編〉     | ⑫ ねんりんピック2011 熊本 他 |
| ⑤ 生活復興支援資金のご案内          | ⑭ 第54回沖縄県社会福祉大会    |
| ⑥ 沖縄県共同募金ニュース           | 全社協会長等合同伝達式        |
| ⑦ シリーズ活動最前線 「玉の子夜間保育園」  | ⑮ 【福祉人材研修センターニュース】 |
| ⑧ 【ほっとニュースTOPICS】       | 求人事業所へのご案内 他       |
| 子育て支援プロジェクト報告、福島県社協来県 他 | ⑯ 【INFORMATION】    |
| ⑩ 沖縄県児童養護研究大会 他         | 芸能の夕べの開催、寄付者芳名 他   |

「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部として、共同募金配分金を充当しております。

# 新年のごあいさつ

社会福祉法人 沖縄県社会福祉協議会  
社会福祉法人 沖縄県共同募金会

会長 新垣 雄久



新年 あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、希望に満ちた新春を健やかに迎えのことと心から喜び申し上げます。

さて、昨年は東日本大震災をはじめ国内外で災害が相次ぎ、経済・雇用情勢も厳しさを増した激動の年でありました。

一方で、昨年明らかにした国勢調査結果では、「一人暮らし世帯」が初めて全体の3割を超え、家族類型でトップとなったほか、高齢化率も23・1%と過去最高を更新しました。今後も

高齢者や単身世帯の増加傾向は続くものと推測され、人口減少と相まって本格的な「超高齢社会」の到来を裏付ける事実が示されています。

このような中、住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、社協をはじめ福祉施設や関係団体等の緊密な連携のもと、支え合いの仕組みの再構築による「共助」の推進が求められています。

沖縄県社協におきましても「第3次沖縄県社協21プラン」に基づき、県民一人ひとりが共に支え合い、安心して生活できる地域社会の形成に向け、尚一層、全力を傾注してまいります。

年の初めにあたり、県民の皆様のますますの御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。

## 多彩な演舞で観客を魅了 ―第14回芸能チャリティー公演― 収益金は社会福祉活動へ 山里氏「健康の許す限り続けたい」

社会福祉活動の資金造成を目的とした「芸能チャリティー公演」（主催・同実行委員会、共催・浦添市）が11月12日、浦添市でこ



ホールで開催された。この公演は八重山民謡の大御所で芸能家の山里勇吉氏が企画運営するもので、平成7年からスタートして今回で14回目を数えた。

公演には昼・夜あわせて約340名がボランティアで出演したほか、協賛広告に36の企業・団体が協力した。この日の公演では琉舞をはじめ、日舞、空手演武、器楽、民謡、マジックとバラエティー豊かな演目が披露され、訪れた観客を魅了した。

公演終了後の12月6日、山里勇吉実行委員長以下、各出演団体の代表者12名は沖縄県社協に新垣雄久会長



を訪れ、チャリティーの収益金全額（74万円余り）の目録を手渡した（上写真）。贈呈式の中で山里氏は「まったくの無報酬で多くの出演者の方々に御協力いただき、ここまで続けて来ることができました。これから健康の許す限りチャリティーに協力していきたい。」とあいさつ。

これを受けて新垣会長は、「多額の浄財を寄付いただき感謝しています。社会福祉活動に大切に使用させていただきます。」とお礼を述べた。

平成24年元旦



# 特集

## 沖社協60年のあゆみ〈後編〉

創立60周年を迎えた沖縄県社協のあゆみを振り返る2回シリーズ。前号では沖社協の設立から本土復帰前までに焦点をあてたが、今号ではその後から現在までのあゆみについて紹介する。

### 本土復帰を果たして

昭和47年5月、念願の本土復帰が実現し、沖縄の施政権が日本に返還された。

これは創設から一貫して本土並みの社会福祉制度実現に向け奔走してきた沖社協にとって大きな節目となった。組織名を「沖縄社会福祉協議会」から「沖縄県社会福祉協議会」へ改称するとともに、これまで沖社協事業の一環として実施してきた共同募金関係業務を分離し、新たに「沖縄県共同募金会」を設立した。昭和32年に創設した福祉委員制度は民生委員児童委員に引き継がれ「沖縄県民生委員児童委員協議会連合会」が結成される等、日本の福祉制度への移行に伴い、多くの

福祉関係機関や施設・団体等が設立されていった。

### 受け継がれる精神

運動体としての沖社協の側面は本土復帰後も受け継がれた。石油危機による経済停滞を発端に「福祉見直し論」が台頭した昭和49年には「沖縄県社会福祉予算対策協議会」を組織し、民間社会福祉予算の確保に向けて運動を推進した。昭和50年代には「ねたきり老人介護者実態調査」「要保護児童実態調査」等の社会調査活動を民生委員らと連携して実施し、県内の福祉課題を浮き彫りにする一方、県民への福祉意識の喚起を図った。社協活動を実施する上で不可欠な種々の調査・研究活動は創設当初から現

在まで沖社協の精神として受け継がれている。

### ボランティア活動の振興

ボランティア活動の振興は沖社協の重点事業の一つである。昭和60年、「ボランティア事業」に那覇市社協を指定したのを皮切りに、市町村ボランティアセンター等の拠点整備、コーディネーターの配置・養成を進めた。併せて、福祉教育の推進にも着手し、ボランティア推進校の指定及び助成、福祉教育マニュアルの作成



NPO・市民活動の振興

を通じてボランティア人口の拡大に努めた。また、平成13年には県ボランティアセンターを「沖縄県ボランティア・市民活動支援センター」へと改称し、地域福祉の推進を担う一翼としてNPOや市民活動の振興にも支援の対象を拡大。NPOとの協働によるイベントやセミナーの開催等に取り組んでいる。

### 多角的な事業展開

県民の福祉ニーズの高まりと社会的期待に応えるため、沖社協では幅広い事業を展開した。この中には、国や県が実施する事業の受け皿として各種補助・委託事業も多い。平成5年には「福祉人材センター」を受託運営、平成9年から「介護支援専門員の実務研修及び受講試験」、平成11年から「県福祉サービス利用支援センター」、その翌年から「県福祉サービス運営適正化委員会」等々、事業規模を拡大していった。

さらに、平成18年には「いきいきふれあい財団」を統



かりゆし長寿大学の運営

合して「県かりゆし長寿大学校」等の事業を開始、「県介護実習普及センター」や「県介護情報サービス公表センター」等、数度の組織機構の改編を経ながら、新たな領域の事業に積極的に取り組んできた。

### 拠点機能を活かして

昭和46年、沖社協は那覇市旭町に「沖縄社会福祉センター」を建設した。福祉基盤の整備が急務だった当時、福祉団体の事務所や研修会・会議を開催する中心拠点として大いに活用された。

その後、平成15年に沖縄県が「県総合福祉センター」



沖縄県社会福祉センター

を那覇市首里石嶺町に建設すると、沖社協も事務所を移転した。一大拠点が誕生したことで、福祉に関する団体・事業・機能の集約が可能となり、沖社協でも前項で紹介した多くの事業を担うこととなった。

沖社協では県民の自立生活支援にも積極的に取り組んできた。市町村社協や民生委員と連携して実施する「生活福祉資金貸付事業」もその一つで、低所得世帯等の自立更生に寄与している。

本土復帰を機に開始

## 自立生活を支援

されたこの制度は、長引く経済不況を反映してニーズは依然として高く、貸付種別を増やしながら現在に至っている。

また、平成11年から認知症高齢者等を対象に福祉サービスの利用や日常的な金銭管理等

を支援する「日常生活自立支援事業」を、平成22年から矯正施設を退所した高齢者等が地域で福祉サービスを利用しながら生活できるよう支援する「県地域生活定着支援センター事業」を実施するなど様々な事業を通じて自立生活を支えている。

ンターを受託運営（後に指定管理）するとともに、自ら実施する事業の効果的推進と併せてセンターの機能充実を図り、県民の負託に応えるべく努めてきた。

## 民間福祉団体の中核的組織として

沖社協では民間福祉団体の中核的組織として県下の市町村社協、福祉施設・団体等との連携を密にし、その支援に力を入れてきた。

市町村社協に対しては復帰前から法人化を進め、平成8年には全ての市町村社協が法人化を果たしている。また、社協が民間の立場から地域福祉を推進できるよう、民間会長の選任や事務

局長の専任化を進めた。この他にも社協診断による法人運営支援や「ふれあいのまちづくり事業」「ゆいまーのまちづくり事業」等の実施による地域福祉活動の基盤整備、市町村合併に伴う社協合併の支援等にも注力した。近年では「市町村地域福祉活動計画」や「災害対応マニュアル」の策定支援等に取り組んでいる。

福祉施設・団体への支援には局内に設置する7つの種別協議会を中心にきめ細かい対応に努めてきた。福祉制度がめまぐるしく変化していく中、新しい制度やサービスの体系を学ぶ研修会の開催、共通課題を検討する会議や各種大会の運営等



沖縄県社会福祉大会の開催

を通じ、施設、在宅の両面から福祉サービスの充実を図っていた。

また、小規模の福祉団体に対しては、活動に係る事業費助成や寄贈物品の配分、機材等の貸出等を通じ、地域における草の根活動を支えてきた。

さらに、定期的な機関紙の発行に加え、平成9年から公式ホームページを開設し、新センターにおいては「社会福祉ライブラリ」を開設する等、福祉情報の収集、発信にも力を入れてきた。

この他、「県福祉人材研修センター」においては、福祉の職場への求人斡旋と

社会福祉従事者への各種研修を通じ、福祉業界の裾野の拡大、職員の資質向上に努めてきた。

## 共に支え合う福祉社会の実現に向けて

平成12年、沖社協では自らの使命と果たすべき役割を明らかにすることを目的に「沖縄県社協21プラン」の策定に着手した。翌年に誕生した同プランは5カ年の中期計画で「共に支え合う福祉社会の実現」に向けた沖社協の基本指針として位置づけられた。このプランは現在まで第3次にわたり策定され、プランに基づき、役員員一丸となって本県の地域福祉の推進に全力を挙げている。



共に支え合う福祉社会を目指します



# 東日本大震災による被災者へ 生活復興支援資金のご案内

生活福祉資金（生活復興支援資金）とは

東日本大震災により被災し、県内へ避難された低所得世帯を対象に、当面の生活に必要な経費等の貸付と必要な相談支援を行い、被災者世帯の生活の復興を支援する資金です。

ご相談、お申込みはお住まいの市町村社会福祉協議会までお願いします。

## ☆資金の種類☆

| 資金の種類 | 一時生活支援費                                                  | 生活再建費                                 |
|-------|----------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 資金の内容 | 食費や家賃、公共料金等、生活の復興の際に必要な当面の生活費                            | 住居の移転費、家具什器等の購入に必要な経費など               |
| 貸付限度額 | 20万円（単身世帯は15万円以内）                                        | 80万円                                  |
| 貸付方法  | 分割（最長6カ月以内）                                              | 一括                                    |
| 備考    | ＊公的給付（生活保護・失業等給付・訓練生活支援給付・年金等）を受給中または受給資格のある場合は対象になりません。 | ＊貸付が決定される前に発注・購入・支払い済みの場合は貸付対象になりません。 |

## 生活復興支援資金の貸付対象世帯とは？

市町村が発行するり災証明書または被災証明書の交付を受けた世帯であって、震災前までに生計を維持していた低所得世帯または、被災により低所得になった世帯となります。

＊福島原発事故による避難（震災発生時の居住地が、原発事故に伴い設定された警戒区域、計画的避難区域、緊急時避難準備区域であることを確認できること）、平成23年3月12日に長野県北部で発生した地震による被災、平成23年3月16日に静岡県で発生した地震により被災した世帯も対象としています。

## 申込について

- 申込者は世帯の生計中心者に限られます。世帯が被災地と沖縄県内で離れて生活している場合は、生計中心者が居住する市町村社会福祉協議会へ申込みします。
- 今後は生活再建のための取り組みを行い、社会福祉協議会による援助指導を受けることに同意が得られることを要件とします。
- 本資金は貸付制度のため、貸付後は償還が伴います。
- 過去に本資金を借入し、滞納が生じている場合は貸付できません。
- 暴力団員であるものが属する世帯は借入申込みができません。

## ☆申込の際に必要な書類☆

借入申込みにあたって、主に次の書類が必要となりますが、その他にも貸付にあたって必要となる書類を求めることがあります。

|                                                  |
|--------------------------------------------------|
| 借入申込者の確認ができる書類（運転免許証、健康保険証など）                    |
| 世帯の状況が明らかになる書類（世帯全員分の住民票で、本籍地や続柄、筆頭者など省略事項のないもの） |
| 東日本大震災により被災したことが確認できる書類（り災証明書、被災証明書）             |
| 世帯の所得がわかる書類（所得証明書、源泉徴収票など）                       |
| 家具等の購入をする際の必要となる経費が確認できる書類（見積書）                  |





親子の絆づくりに配慮した対応を

## 玉の子夜間保育園

県内において、夜間保育事業を実施している保育園は3箇所ある。そのうちのひとつが、那覇市牧志にある「玉の子夜間保育園」である。

園長の高良桂子氏に取材した。

### 【多様な保育ニーズに対応】

夜間保育は、基本的に午後1時から午前0時までの受け入れであるが、昼夜併設の同園では、午後1時から4時間の前倒し、午前0時から2時間の延長保育を含め、計6時間の長時間保育に対応している。保護者は、報道関係、塾講師、サービスマンなど就業時間が主に夜間や変動の多い就労形態の下で仕事をしている。昼夜併設のこの園では、従来の保育園では対応できなかった保育ニーズに対応できるメリットがある。

### 【親子の絆づくりへの配慮】

子どもは親の様子を良く見ていると話す園長は、親子の絆づくりに配慮した対応を心がけている。親が普段の表情と違って見えたなら事務所に誘い、気軽に声をかけ親のことばに耳を傾ける。それだけでも、「ストレスの解消」になり、親の表情が変わ



住所：那覇市牧志 2-3-15  
TEL：098-867-3221  
FAX：098-862-3930

るという。  
このように親の様子にも注意を払うことは子育てを支援する上で大切である。

同園では、子育ての主体はあくまでも親であることを再認識させる等親の不安定さが子どもに影響を及ぼす前に解消できるよう工夫している。

### 【職員への配慮】

夜間保育では、保育士の勤務体制を考慮する必要がある。同園では、勤務がかったよらないように昼夜の職員に対し14種類ものシフトを作成し、働きやすい勤務体制づくりを図っている。こうした配慮が安全で利用しやすい夜間保育を支えている。

めまぐるしく変わる社会環境に伴い保育ニーズも変化していく。市街地中心に位置する同園では、多様な子育て支援策を探っている。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

# ボランティア活動保険

全国170万人  
加入!!

<http://www.fukushihoken.co.jp>



### 特長は

- 活動場所と自宅との往復途上の事故も補償!
- 熱中症(日射病・熱射病)による障害も補償!
- ボランティア自身の食中毒や特定感染症も補償!
- 地震など天災によるケガも補償(天災タイプに加入の場合)

### ボランティア行事用保険

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

### 福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

### 送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

年間保険料 Aプラン...280円 Bプラン...420円 天災タイプもあります

※各プランの補償金額、補償内容などの詳細は、専用のパンフレットをご用意しておりますので、取扱代理店にお問合せください。

お申込み、お問合せは、あなたの地域の社会福祉協議会へ

社会福祉法人  
全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一緒に契約を行う団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763  
(引受幹事保険会社) 日本興亜損害保険株式会社

## 安心・安全な移送サービスを目指して 「福祉有償運送運転者講習会」

沖縄におけるコミュニティソーシャルワーク2010  
「平成22年度沖縄県福祉協コミュニティソーシャルワーク研究会報告書」  
を発行しました!!



沖縄県社会福祉協議会では、11月26日（土）、27日（日）、県総合福祉センターにおいて、福祉有償運送運転者講習会を開催した。本講習会は、高齢者や障害者等、公共交通機関の利用が困難な方々に対し、NPOや社会福祉法人などの非営利団体が自家用車を使用して有償で移送サービスを提供する「福祉有償運送」に携わる方々を対象に実施したものだ。

講師としてNPO法人Jネット（国土交通省認定講習実施団体）より6名、地元のインストラクター3名に御協力いただいた。

1日目は座学として介護



現場での事例や、障害のある当事者からの生の声を交えながら、関係法令や安全・安心な運行と緊急時の対応、障害の知識・利用者理解などについて分かりやすく講義してもらった。

2日目は移送サービスに必要な介助技術の演習・実技として、車イスの介助や、福祉車両の操作、運転実技を行った。

運転実技では、講師からアドバイスを受けながら皆真剣な面持ちでハンドルを握り、実際に県総合福祉センター周辺を走行した。受講者からは「初めてリフト車の操作を行った」「車いすに乗って利用者の役を体



験し、体の自由が利かないことがとても恐怖に感じることがわかった」「利用者に安心してもらえるよう、声かけなどの工夫を心がけたい」との声があがった。

今回の講習会では、77名の受講者に修了証が交付され、今後、移動困難者の方々へ安心・安全な移送サービスを行う運転者として活躍が期待される。

今回の講習会は、2月に開催を予定しており、併せて「福祉有償運送インストラクター養成講習会」を実施し、講習会の講師として協力していただく方々を養成する。お問合せは沖縄県社協地域福祉部まで。

近年、地域福祉の推進方策の一つとしてコミュニティソーシャルワークの手法が注目されています。本県においても、市町村内に複数の圏域を設定し、コミュニティソーシャルワーカー等を配置して、地域住民からの生活相談への対応や、問題解決に向けた地域社会への働きかけ等の活動を行う社協が増えてきました。

また、地域福祉計画・地域福祉活動計画に、コミュニティソーシャルワークを明確に位置づける行政・社協も増えてつづきます。

このような動きを受け本会では、昨年七月に「沖縄県社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーク研究会」を立ち上げ、これまで9回にわたり、コミュニティソーシャルワーク実践を取り巻く課題等を共有し、今後の推進方策等を検討してまいりました。

この度、本県にお



けるコミュニティソーシャルワーク実践の普及・拡大を図るために、県内の実践事例等をまとめた報告書（写真参照）を発刊（編集・かみざと社会福祉研究所／主宰・神里博武）しました。

本報告書は、昨年度の本研究会の研究成果や先駆的に取り組む市町村協からの実践レポート、県内の小地域福祉活動とコミュニティソーシャルワーク実践の考察を加えた三部構成となっています。特に、実践事例では創意工夫のある内容が掲載されており、県内のコミュニティソーシャルワーク実践の息吹が感じられます。



## 報告! 沖縄に避難している215名の方に 子育て支援本を提供しました!!

### ◆NPOと企業、社協の連携

このプロジェクトは、「避難している方に、私たちが編集・出版してきた本が役に立てば…」というNPO沖縄子育て情報ういずの想いから始まった。ういずは「子育て中の私」から「子育て中のあなた」へという当事者の視点を大事に活動してきた。具体的な支援ツールを持つNPOと、県内全ての市町村にある社協がタッグを組めば、お互いの強みを活かした効果的な支援の可能性が生まれる。また、避難している方の移動手段の一助になればと、NPOバスマップ沖縄の参加も得た。出版社やラジオ局の協力も得て、沖縄での子育てやマタニティの情報を集めた本やバスマップなど6冊を、各市町村社協を通して無償提供した。

### ◆受け取った方の声は…

利用者は、被災県だけでなく関東地域からの自主避難の方が半数を占めた。8割が就学前の子ども連れで、当面沖縄に住みたいという希望が7割を越えていた。今後必要な支援では、「子どもの保育所や学校」「就労」「友達・仲間づくり」について望む声が多かった。これまで、6つの市町村社協が避難者交流会を実施し、仲間づくりや地域の方との交流に取り組んでいる。「地域に根付いた情報で生活していくのに役立った」「温

## 東日本大震災で避難してきた方へのサポートプログラム おきなわを楽しむ☆子育て支援プロジェクト♪

- 実施主体：NPO沖縄子育て情報ういず！  
NPOバスマップ沖縄 (有)ボーダーインク  
各市町村社会福祉協議会 沖縄県社会福祉協議会
- 協力：FMおきなわ、(株)東洋企画印刷
- 配付期間：2011年6月27日～9月30日
- 配付方法：県・市町村社協、NPOにて配付
- 配付対象：東日本大震災で沖縄に避難している子育て中や妊娠中の方。被災県や罹災・被災証明の有無に限らず対象。一部子育て中以外の方も対象。
- 配付した人数：215名、うち子育て中の方183名
- 市町村別配付状況：今帰仁村から与那国町まで25市町村で配付。最も多いのは那覇市社協(86名)。
- アンケート：本の提供時に配付。144名が回答(回答率70%)。うち子育て中は132名。
- 福島県、宮城県以外に東京都を中心に関東地域からの避難が多い。同行している子どもは215名。

かさを感じて胸がいっぱいだ」という声も数多く寄せられた。

このプロジェクトは終了したが、新たに避難された方や受け取っていない方へ、県ポラセン又は最寄りの社協で対応できるようにしている。ぜひご連絡ください。

### ★『実施報告書』は県ポラ

センのホームページ『ポランチュねっと』よりダウンロードできます。

<http://volunchunet/>

## 福島県社協より岩下副会長ら来局 東日本大震災 福島県の支援へ感謝

11月8日、福島県社会福祉協議会の岩下哲雄常勤副会長と渡辺誠一地域福祉課長補佐が沖縄県社協を訪れ、東日本大震災にかかる被災地支援へのお礼と現状報告を行った。

沖縄県社協では甚大な被害が出た東北地方の復興支援のため九州ブロックの各県・指定都市社協とともに福島県内の社協へ職員を派遣し、災害ボランティアセンターの運営等に当たった。派遣に際しては沖縄県内16の市町村社協と県共同募金会の協力得て8月末の終了までに全17陣、延べ44名が福島県で活動に取り組んだ。

会談の中で岩下副会長は、「沖縄県社協には初期段階の3月に九州ブロックの幹事県として御尽力いただいた。津波よりも原発事故の影響が大きく、県民も落ち着かない状況が続いているが、復興に向けて精一杯取り組んでまいりたい。」と



福島県社協の岩下哲雄常勤副会長（写真奥左）と渡辺誠一課長補佐（同右）

あいさつ。渡辺課長補佐からは、福島県内の状況について、「現在は仮設住宅等での生活支援を中心に地元主体の活動にシフトしつつある」等の報告があった。対応した沖縄県社協の比嘉成和常務理事は「社協と行政が連携し、住民の暮らしを守る体制をしっかりと築いて、一日も早い復興を願っています。」と述べた。この他にも、沖縄県内に避難してきた住民に対する支援等について情報交換を行った。

# ドラマのある日常生活を!!

「貧困と自己肯定感を高める支援とは」

第30回沖縄県児童養護研究大会「貧困と自己肯定感を高める支援とは」(主催・沖縄県社会福祉協議会)が去る11月18日(金)に沖縄県総合福祉センターにて開催され、県内各地より約270名が参加した。

沖縄県青少年・児童家庭課の田端一雄課長より「児童福祉制度・施策の動向」と題し、児童福祉施設最低基準の改正や第三者評価の義務化などについて国の動向に沿った行政説明が行われた。

講演は、浅井春夫立教大学教授より「子どもの貧困と自己肯定感・観を高めるために」ヨカタさがしの実践論とドラマのある生活づくり」をテーマに講演が行われた。

浅井氏は子どもの貧困問題について、その要因の一つとして家庭の所得格差が、子どもの社会的自立と将来

展望において重要な分岐点である大学等の進学を左右している」と指摘。

さらに「保護者の心身状態から虐待に結びつくことがある」と、虐待の背景、貧困問題が潜んでいることにもふれた。

また、児童福祉の現場においては、児童自身が捉える自己肯定感と、周囲が児童をみる際の自己肯定観の2つの視点があるとし、支援者は自己肯定観を養うことで、児童の自己肯定感向上のための支援ができると説明。児童養護施設におけ



講師の浅井春夫立教大学教授

る日常生活でも問題点や注意喚起だけではなく、肯定的な言葉かけや褒めることがその向上につながる」とし、子ども達に自己の人生を演出できる「ドラマのある生活」を送るよう、支援者が意識することが大切であると訴えた。

発表と討議が行われた。その内、第2研究部会では「自傷行為を繰り返す児童の支援について」をテーマにオフィスサーブ代表の安高真弓氏を助言者に、事例発表があった。



研究大会の様子

## 沖縄の童たちの未来へ

夢をつなぐ!!

去る10月18日(火)、沖縄「琉輝会」より、子ども達のために利用してほしいとチャリティ事業の浄財57万円余りが沖縄県社会福祉協議会を通じて沖縄県児童養護協議会に寄付された。

贈呈式には、沖縄「琉輝会」会長の大城正樹氏をはじめ同会役員が出席し、県社協会長の新垣雄久が寄付金を受け取った。寄付金の配分を受ける県児養協の島袋朝久会長は「毎年開催している児童養護施設等スポ

ーツ大会に宮古・八重山の施設に入所している子ども達は参加出来ていなかった。今回いただいた浄財は子ども達が大会に参加するための費用として活用させていただきます。」と沖縄「琉輝会」の温かい善意に感謝した。

### 沖縄「琉輝会」

同会は、鹿児島県等でチャリティ活動に取り組んでいる西郷輝彦氏のチャリティ事業サポーターとして、沖縄県内において発足した。



寄付金の贈呈式の様子

「沖縄の童たちの未来に夢をつなぐ!!」を合言葉に、「チャリティ・西郷輝彦を囲む夕べ」「チャリティゴルフコンペin沖縄」を8月18日・19日の両日、県内において実現させた。



## 罪を犯した高齢者・障害者の 地域生活支援を考える

県社協では、平成23年11月9日（水）県総合福祉センターにおいて、「罪を繰り返す障害者・高齢者」について、共通理解を深めることを目的に、地域生活定着支援事業研修会を開催した。

当日は、県内の障害者関係の施設に勤める方など、100名近くの参加者が集まった。初めに講師の新井邦彦氏（独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園）による公演が行われた、自活訓練ホームでの実践を通して、罪を犯した知的障害者の実際の様子や取り組みについて理解を深めた。

のぞみの園では、地域生活定着支援事業が開始する以前から、矯正施設を退所し福祉の支援を必要とする知的障害者の受け入れを行い、現在は10名近くの方が入所しているとのこと。施設へ受け入れる準備段



講師を務める新井邦彦氏

階から必要なこと、施設の一日の流れ、個人に合わせた支援のプランニング（個別支援計画）の作成の仕方など、実際に使用している表などを利用しながら、分かりやすく説明していただいた。

新井氏は、「罪を犯した知的障害者として見るのではなく、罪を償って矯正施設を退所しているのだから、一人の知的障害者として見ることが大切」、そのことを、施設職員の支援理念として、意識の統一・共有化の必要

性を伝えていた。

研修会後半は、沖縄県務所、更生保護施設、福祉事業所、地域生活定着支援センターからの事例報告で、現在の入所者の現状や、入所者との関わりから見えてきた課題について、新井氏のアドバイスも受けながら理解を深めた。

研修会を通して、各関係機関としつかり連携をとる大切さや、罪を犯した障害者、高齢者の問題の背景をきちんと把握して、個人の問題としてではなく、社会全体の問題をととして捉え支援をしていく必要性を考えさせられた。



事例報告の様子

## 社協による個別支援と 地域支援について学ぶ

日常生活自立支援事業・地域福祉権利擁護推進員等研修会が平成23年11月25日（金）県総合福祉センターにおいて開催された。

市町村社会福祉協議会が日常生活自立支援事業のような「個別支援」と従来社協が行ってきた「地域支援」について、関連を学び、これからの実践に活かすことを目的に開催した。講師には沖縄大学准教授の西尾敦史氏を迎え、講義および事例検討が行われた。

講義では、西尾氏が、日本での社協の成り立ちを振り返り、当初は地域支援の役割が主だったが、次第に個別支援までを含む幅広い地域福祉の推進役として期待されるようになってきたと解説した。また、これからは、ミクロ実践（個別支援）とマクロ実践（地域支援など）を融合する視点が求められていると説き、そのうえで、融合には、社協

組織内外における「コーディネート」や「情報共有」などが、潤滑油としての役割を果たすと指摘した。

事例検討では、金武町社協主事の宮城順治氏より、実践事例の報告をいただき、事例をもとに、参加者全員で今後の支援策等について検討を行った。

事例を丁寧に振り返りながら内容を共有し、ミクロ実践とマクロ実践がどのようにに展開されているかや、今後の対応等について活発な意見が交わされた。



事例検討会での参加者の様子

# 第24回全国健康福祉祭くまもと大会 (ねんりんピック2011熊本) 沖縄県選手団、17種目99人参加！



大会マスコット  
「ASO坊健太くん」

「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」は、60歳以上の高齢者を中心とする、スポーツ、文化、福祉の総合的祭典で、厚生省（現・厚生労働省）の創立50周年を記念して、昭和63年の第1回ひょうご大会以来、毎年、都道府県持ち回りで開催されており、24回目を迎える今年度は、熊本県で10月15日から18日まで4日間の日程で開催された。



沖縄県選手団結団式／那覇空港ウェルカムホール

## ▼総合開会式



ひのくに2011キッズ作成の横幕

当日は、天候にも恵まれ、入場行進前には現地の小学生（ひのくに2011キッズ）との世代間交流運動があり、横幕等受渡式が行われた。  
また、大会開催前から沖縄県選手団を応援してくれた子どもたちのために各競技の選手から記念品を贈呈し、短い時間の中、世代を越えた交流を図ることができた。



秋空の下、選手団入場行進（総合開会式）

入場行進では、66選手団の先頭を切つて、沖縄県選手団が行進。旗手に剣道競技に出場の奥濱恵榮さん、ダンススポーツ競技に出場の玉城嶺子さんが選手団を紹介した。  
選手は、デンファレ（県花卉園芸農業協同組合より寄贈）を手にアピールをし、沖縄県をイメージした3色のユニフォームがひと際、目立っていた。

## ▼交流大会

4日間の大会日程で、全国から選手・役員約10,000人が参加し、熊本県内13市町において熱戦が繰り広げられた。

大会事務局によると、4日間の参加者数は観客も含め、述べ55万人で、スポーツ、文化などの22種目のほか、熊本県の魅力をアピールするイベントや健康、生きがい、三世代交流を主体とした各種イベントが開催され、各地で多くの交流の輪が広がった。

今回の熊本大会には、沖縄県から、17種目99名の選手の参加と美術展に6部門11作品を出展。各競技それ

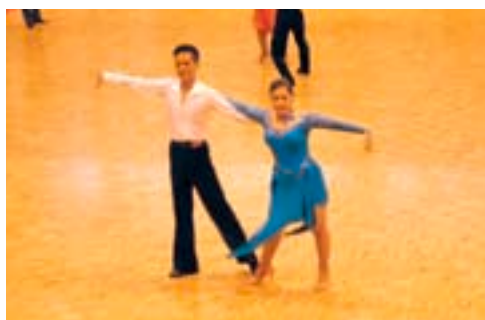


マラソン男子70歳以上の部8位入賞！！

それぞれの成績を収め、当日の炎天下の中、マラソン男子で8位入賞、今大会から初参加となる将棋では、準決勝戦でおしくも敗れたが、個人3位。また、ダンススポーツ競技では、過去最高の個人12位に輝くなど好成績を収めた。



24回大会にして初参加。3位(将棋)



チャチャチャ12位（127組中）





美術展／各部門の受賞作品

生きがい関連イベントの一つとして行われた美術展では、写真の部で銅賞に入賞。沖縄県からは、4年ぶり「かごしま大会」以来の入賞となった。

今回も競技を通して各県選手団やボランティア、地元の子供たちとの交流など、多くの友好の輪とたくさんの思い出を得ることのできた実り多い大会となった。

美術展で銅賞を受賞した川崎吉正さん(南城市・67歳)には、12月14日(水)に第3回沖縄ねんりんピックかりゆし美術展表彰式の中で沖

## 第24回全国健康福祉祭くまもと大会（ねんりんピック2011熊本） 沖縄県選手団成績表

| 競技名     | 人数 | 大会成績                                              |
|---------|----|---------------------------------------------------|
| 卓球      | 7  | 前田 節子選手(高齢者賞/78歳)                                 |
| ソフトボール  | 15 | 仲里 栄仁選手(最高齢者賞/87歳)<br>新垣 善信選手(高齢者賞/82歳)           |
| ゴルフ     | 3  | 神山 善勝選手(高齢者賞/81歳)<br>喜屋武 良雄選手(高齢者賞/82歳)           |
| マラソン    | 6  | 赤嶺 勝雄選手：8位(10Km・70歳以上・男子の部)                       |
| ダンススポーツ | 8  | 団体の部：21位(47チーム中)                                  |
|         |    | 【個人戦】<br>ルンバ(出場129組) 屋嘉部 満、島袋 美代子ペア(24位/準々決勝敗退)   |
|         |    | 【個人戦】<br>チャチャチャ(出場127組) 屋嘉部 満、島袋 美代子ペア(12位/準決勝敗退) |
| ボウリング   | 2  | 団体の部：14位(73チーム中)                                  |
|         |    | 金城 徳光選手：55位/146人中                                 |
|         |    | 城田 常博選手：22位/146人中                                 |
| 将棋      | 3  | 大城 実孝選手：3位(笠智衆ブロック)                               |
| 美術展     | 11 | 写真の部：「愛情たっぷり」/銅賞入賞(川崎 吉正/67歳/南城市)                 |

◆大会成績は、県社協ホームページからダウンロードできます。  
<http://www.okishakyo.or.jp/ikiiki/>



入賞作品／銅賞

縄県知事より伝達表彰を行った。

来年度は、宮城・仙台大会が開催となる沖縄県からは、13種目82名の選手派遣、美術展においては、6部門12作品の出展を予定しており、県予選会が開催されるなど、大会派遣に向けての準備が始まっている。宮城・仙台大会でも沖縄県選手団のさらなる活躍が期待される。



運動指導する仲村悦子氏

生活習慣病について正しく理解し、心身ともに健康で働きやすい職場環境を図ることを目的に、県総合福祉センター入居団体職員を対象とした「生活習慣病予防研修会」を11月29日に開催した。今回は、運動指導士の仲村悦子氏を講師に招き、実演(運動)を中心とした研修を行った。ストレッチを取り入れた十分な準備運動の後、呼吸と身体運動を合わせゆったりと動く気功、アップテンポなエアロビクスと多彩な内容で汗を流した。参加者の多くは事

## 心身ともに健康に —生活習慣病予防研修会—



楽しく汗を流してリフレッシュ

務職であり、運動不足に陥りやすい。そんな中、この研修会は、自らの健康状態を知るいい機会となった。

また、運動は生活習慣病予防だけでなく、ストレス解消やリフレッシュにもつながる。日々のルーティンワークで刺激が既定されてしまった脳に身体運動を通して異なった刺激を与えることで脳の活性化効果が期待できる。受講した男性職員は、「ストレッチなど自宅で実践できることから始めていきたい。」と振り返った。

# 今こそ力を合わせ、みんなの思いを地域の絆に 沖社協創立60周年記念 第54回沖縄県社会福祉大会 221人、4夫妻、28団体を表彰

11月15日、第54回沖縄県社会福祉大会（主催 沖縄県、県社会福祉協議会、県共同募金会）が沖縄コンベンションセンター劇場棟において開催された。

式典では、多年にわたり本県の社会福祉に功績のあった方々に対する表彰が行われ、県知事表彰・感謝及び大会長表彰・感謝を含む221人、4夫妻、28団体が受賞した。

式辞の中で新垣雄久大会



大会長表彰の様子



式辞を述べる県社協 新垣会長

長は、3月11日に起きた東日本大震災からの復興に対する継続的な取り組みの必要性を訴えた。また、少子・高齢化における人口減少や長引く不況等から生じる貧困、格差の問題等から、今後の福祉需要の増大が予想されることを踏まえ、大会に参加した福祉関係者に対し「誰もが住み良いまちづくりの実現」に向けたなお一層の協力を求めた。

その後の大会宣言（案）は万雷の拍手で採択され、大会スローガンのもとに県

民一人ひとりが力を合わせ、ともに支えあう福祉社会の実現を目指して全力を傾けることを誓い合った。

式典終了後、「無縁社会からの脱却―今、私たちにできることは―」と題して、

## 県内福祉の発展に貢献

全社協・中央共募・全民児連会長表彰合同伝達式

12月13日に県総合福祉センターにて合同伝達式が行われた。

この合同伝達式は、11月18日に東京の日比谷公会堂にて開催された全国社会福祉大会へ出席できなかった県内表彰者に対して、表彰状の伝達するものである。

今年度は全社協会長表彰者は41人、中央共同募金会会長表彰者・団体3人・1団体、全民児連会長表彰者9人がそれぞれ受賞した。

県社協及び県共募の新垣

NHK放送センターの板垣淑子氏の記念講演があった。講演では、誰にも看取られず人生の最期を独りで迎える無縁死に対して身元保証人代行サービスのようなどきな人生の最期を託さざるを得ない現状に疑問を投げかけ、親類や地域住民、職場とのつながりの大切さを強調した。私たち福祉関係者にとって全国的に広が

受賞者の皆様には豊富な経験を活かして、更なる県内の社会福祉の発展にご尽力いただきたい。



無縁社会について講話する板垣氏



## 福祉施設・事業所のみなさま

求人票を出してみませんか??

ネットから簡単申請♪簡単登録♪募集から採用まで、「福祉のお仕事」で効率的に!!

### ～登録申請から採用までの流れ～

まずは、インターネットで「福祉のお仕事」を検索!!

①事業所マイページ登録を申請

②事業所マイページにログイン

- ・24時間求人票の申請が可能
- ・助成金や各種制度の情報を提供
- ・事業所詳細情報を使って施設の個性をアピール

③マッチング

- ・紹介を希望する求職者に紹介状を発行。
- ・条件を満たす求職者に個別に求人紹介。

④施設・事業所での選考

⑤採否通知

- ・採否が決まった求人票を24時間取り下げが可能

《お問合せ先》 沖縄県福祉人材研修センター

http: www.fukushi-work.jp

住所: 那覇市首里石嶺町 4-373-1 東棟 3階

TEL: 098-882-5703 FAX: 098-886-8474

こちらの画面から申請できます!!



認知症について語る大谷氏

県社協では、平成23年11月10日(木)浦添市で「だこホール」において、若年性認知症の方やその家族への地域支援の充実を図ることを目的に社会福祉法人東翔会グループホームふあみりえ(大牟田市)による講演会を開催した。大谷氏は、認知症の方に対する理解や大牟田市で地域全体が取り組んでいるまちづくりについて講演し、「その人らしさを尊重して」接するよう呼び掛けた。

## 「介護の日」記念認知症特別講演会

「まちで、みんなで認知症の人をつつむく共感と協働のまちづくり」

### 「若年性認知症の人のサポートとして」

若年性認知症は、社会生活面での影響が大きく高齢者とは違うケアが求められている。また、若年性認知症であることを周囲に知られたくないという人はいるが、大事にされていることを知ると支援を受け入れる人が多くなることから、雇用者や学校関係者・行政・医療・福祉関係者の連携を図り、個々の実情に応じた支援を行うっていく必要がある。

### 「徘徊模擬訓練とは」

今回の講演会では、実際に大牟田市で徘徊模擬訓練(認知症の高齢者が行方不明になったという想定で、住民や企業、警察などが参加)に徘徊役として参加したことのあつる橋本さんの体験から「認知症の人に勇気をもって優しく声掛けを行うこと

で認知症の人が救われる」という強い橋本さんの思いが伝わった。

そして、子ども達と語り合う大人や地域のために書いた本(いつだって心は生きています大切なものを見つけよう)を通じて、支援の大切さを学ぶ機会を作っていることが報告された。

「ユイメール」と似た言葉で大牟田市には「向こう三軒両隣」と言う言葉があり、認知症になっても安心して暮らしていけるという考え方が、沖縄でも浸透していけば、地域全体で認知症の方を支援していけることを考えさせられた。

沖縄県介護実習・普及センター

【連絡先】

tel 098-882-1484  
Fax 098-882-1486

ホントにおすすめの本

『ブックドクターあきひろの絵本の力がわが子を伸ばす!』

発行/株式会社アールズ出版 定価/1,000円(税抜き)

わが子に絵本を読む際に、「どんな絵本を読んだら才能を伸ばしてあげられるか?」と悩んだことはないでしょうか。今回紹介する本は、その悩みに答えようと努める親向けのものです。例えば、大人にとって一見価値のないようなものでも、子どもにとっては大切な宝物であったりします。大人の価値観で判断して壊したり、捨てたりした場合、子どもは機嫌を損ねてふさぎこんでしまうでしょう。このような状況を招いたときにどのような絵本を読んであげると親として伝えたいことを理解してくれるか、このような悩みに応えてくれる一冊です。

本書は、語彙力の少ない子どもに合わせて視覚効果を活かし、納得させる絵本を紹介します。つまり、「お勧めの本を紹介する本」ということです。ぜひ、ご一読ください。



社会福祉活動資金づくり  
「第38回芸能の夕べ」の開催

県社協では、「社会福祉活動資金づくり第38回芸能の夕べ」を下記のとおり開催いたします。多くの皆様のご来場をお待ちしております。チケット等に関する問い合わせにつきましては、県社協総務企画部までご連絡ください。

▼出演

沖縄新進芸能家協会・他

▼日時 2月26日(日)  
17時30分開場  
18時開演

▼場所 沖縄コンベンション  
センター劇場棟

▼入場料 1枚1,500円

▼問合せ先(電話)

098-887-2000



寄付・寄贈者芳名

10月1日～11月30日

- 沖縄「琉輝会」様
- 株式会社サンレー様
- 円応教沖縄布教所様
- 仲程健太郎様
- 株式会社ジャパル様
- 沖縄生麺協同組合様
- 株式会社琉球銀行様
- 中本太郎様
- あいおいニッセイ同和損害保険株式会社様
- 手積み芋麻の会様



琉球銀行総合企画部長 宮城竹寅氏より「あまり音楽会などに触れ合う機会が少ない方へ、楽しい時間を過ごしていただきたい。」とピアノリサイタルチケットを寄贈いただいた。

表紙の写真

作品名「海ソテツ」



撮影者 勝連 栄公氏

晴天の下、ニライカナイ橋で撮影した一枚。ソテツが海の中で気泡を出しているような幻想的な様子に見えて、カメラを手に取ったという。

普段からウォーキングをしている勝連さんは、カメラを携帯し撮影するのが日常となっているとのこと。

撮影した写真を年賀状やメールに使えるからと学び始めたカメラが、今では日常の楽しみになっている。

編集後記

本号が発行されるころには、新年が明け、忙しい年度末が待っています。身体に気を付けてがんばりましょう。